

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimètres

Blue	1	2	3	4	5	6	8	9	10	11	12	13	14	15	17	18	19
Cyan																	
Green																	
Yellow																	
Red																	
Magenta																	
White																	
3/Color																	
Black																	

A B M



初學和歌式

あしひらき
しるし
しるし
しるし

特 別
~4
8110
5



84
8110
5

初学秘笈式

卷五

かき丸様の事

一 八雲法師の才一のちゆとよとまのゆるるこもる
 せど又いつとよのなまぬ人もあるあふくともあり
 上の子の中にもあるあふくともありぬもあり
 一 八雲法師の才一のちゆとよとまのゆるるこもる
 うおもあつとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり
 お八丸とよとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり
 ろーどつぐん家とよひえさるこもると然しつぐん
 らしとよとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり
 ときよお慈のちゆとよとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり
 かき丸のゆるるこもるあふくともありぬもあり
 とよのちゆとよとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり
 とりなまぬとよとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり
 とよのちゆとよとまのゆるるこもるあふくともありぬもあり



けくはつさくも元は自在なる人なごはうのどし
 初んたといつはよいか奇れのさ味とんごりて
 ハとよやうよきりなりごうるべたれは藝古の者
 ハ古人のなまなりやうごうごうごうごうごう
 じゆもれごうごうごうごうごうごうごう
 是はふけりすのきよまごごうごうごうごう
 自然よりごうごうごうごうごうごうごう
 一八雲匠中此のまごごうごうごうごう
 ようごごうごうごうごうごうごうごう
 我んも知もなごうごうごうごうごう
 けりごうごうごうごうごうごうごう
 ごとごうごうごうごうごうごうごう
 ごとごうごうごうごうごうごうごう
 ごとごうごうごうごうごうごうごう
 ごとごうごうごうごうごうごうごう

一 今更に元は時代の中詠歌大極蓋故ゆは元は河内
 かなは後於遠りごうごうのまご川後百その歌者
 清歌のまのまご近東ごうごうありと八雲匠新
 よごごうごうごうごうの歌者も人よごごうごう
 老も人のまごあるまごのそれと交ゆごうごう
 うや清歌よは近世まごのまご引用たりごう
 是は今更に撰集八万葉古今後撰拾遺後於遠り
 元ごごうごうごうごうごうごうごう
 中納言大江建房持中納言藤原信成
 將理大友原系原系持大友原系持右近衛中納言
 茂位系原系原散位系原系原持中納言藤原大友原
 官肥後一宮紀伊系原河内也右近衛の候はは百
 の歌者の中もごうごうごうごうごうごう

とし志うれば万葉より後撰遠この作者又後川院
百その中人まよふてさるるべしこれより以後の作者
の奇ハかまよふとくさくはくし先志の統よりさるる
かこおひひつらうとくさく又ハ定めの時代ハ作者ハ
かかろバハことハ代集の末新編古今の奇まよふ
もさるるべし一源文大板抄よとくさく

一 井蛙抄 野原抄 の次也

一 井蛙抄 野原抄 上云彼進捷井官抄 進捷抄 上云云と

くつらうさちがしげあ一三句の上よ三字四字と

ゆハ木田抄とあまぜよ同すとて右方の羽と源と

るハ念ね一花とてハと源一ハと源と源と

季の奇とりて鳥籠の奇と源一鳥籠の奇とりて

四季ハ奇と源とくのとく時右方と九一結ハ

望海寺大板抄 望海寺大板抄 これが奇とくさく置ハが奇五句二十

字の中とくさくさハあ一、二句の上二字志の奇四

字よりハゆり五字とハとくさくさくさく又同す

と改ちをハ羽と源とハハ奇の奇と九一又羽の

くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

か奇の四季の奇と鳥籠よりハハ奇の鳥籠の奇

を四季よりくさくさくさくさくさくさくさく

花の奇とくさくさくさくさくさくさくさく

くさくさくさくさくさくさくさくさくさく

とくさくさくさくさくさくさくさくさく

志とくさくさくさくさくさくさくさく

母もあれとこれハと子の志とくさくさく

あつど別撰等庭訓抄 庭訓抄 花の奇とくさく

本とやうて本よさくさくさくさくさく

春の奇とハ秋冬かどさくさくさくさく

奇などとてあつもその奇とくさくさく

よふにうらむとてあてしとて

一かきれ三のうと今依るの前の二言のよとくかき
のこまのハニ句より久をどく一と句のよおとくか
和弄庭訓柳が春の初とあすりみ多しうらむハあると
ドもさうもてんを中と給と定ぬる初と二とくか
て今のあれと下の句おとくかあてさうやとてハ
タこれハ雪のうとては初とあすりみ多しうらむハ
とゆりかあともくハ雪のうとては初とあすりみ多し
とてくとも下句よあてさのあすりみ多しうらむハ
とよふとびどーとて

一かきれとてあてしとて
乃ゆきとてあてしとて

古今あか
あかきとてあてしとて
しつとてあてしとて
新古今集

花道中巻

一かきれ三のうと今依るの前の二言のよとくか
古今あか

新古今集
あかきとてあてしとて

一かきれの返りのやうと今依るの前の二言のよとくか
古今あか

後松送去かき
おありん今とせハや川のよの初とあすりみ多し

一かきれの返りのやうと今依るの前の二言のよとくか
古今あか

新古今集
あかきとてあてしとて

一かきれの返りのやうと今依るの前の二言のよとくか
古今あか

定秋

大に千重

一かゝの約ひらつとれらるる

古今恋かき

清人子集

あつて我と人申ふれまそとて後のおれい

徳成つ

一かゝの二そとらつとる

古今難かき

清人子集

いせもあし我とてそとらるる人のうらもよとらるる

日

いとくおれまらんあまのしとらるる

宇水

いとくおれまらんあまのしとらるる

いと井野抄

返すの草

一函秋竹とてとらるる

一函秋竹とてとらるる

るるあつて

あつてとて

あつてとて

あつてとて

あつてとて

あつて

小野小町

あつてとて

あつてとて

あつて

あつて

つれくの海に流る酒川神のなまてあやうもなり

五十一

介りひら

此の神は神にひつり酒川と云ふたうらとさうかへは人
神のなまてといふことしてそかまへハれれども
一カもなまてなすうもあひつバれび一とこ
い等返方神の中快なるう一法抄こころ
又このことくあやうとこれいもかうもあれ
といふ神もあり

後冷泉院

新古今

大貳三位軍より侍りたりと云ふ

侍りたりと云ふ侍りたりと云ふ

大貳三位

後一条院去日行幸の附上東院日行終あるを
佐成寺入
そのうもや野野人春日の月一なるもあゆ
はく一
後一条院
はく一
後一条院

佐成寺入

後一条院

そのうもや野野人春日の月一なるもあゆ
はく一
後一条院
はく一
後一条院

兼歌の産後

兼歌の産も産の産も丹の神

一冊魏書 耕を為
おもしろくさうりて申くさうりてさうりて
の時八余日さうらぬと何付さうりて
る行い世の産ひたれハ悉知いつく難云兼容一野

一 かなしむる程よむ近近てあるておどろくもあま
 うまよりてあなれもいづ程ならあかく又とまりさ
 ぬなるあといふと何れ他人の用をさうしてあま
 しく中よあうーあかりあまよまへ今よりあつら
 むれはるもあうく退屈のあつらひとくはあ歌とく
 うらんとくああ花のあひとくうーあうくあましと
 じいふうあましとく

一 愚問時彦兼日の歌八目あわれ八時よあつらへてんあ
 とくうあうーああ八時分あああああああああ
 かなよああああああああああああああああああ
 十 近來風物あれのああああああああああああああ
 とくうくもああああああああああああああああ

和歌抄のち 九和歌よあうてあうあんとあうあうあ
 のあああああああああああああああああああ
 べーあああああああああああああああああああ

なりあうああああああああああああああああああ
 てあああああああああああああああああああ
 さいあああああああああああああああああああ
 皆あああああああああああああああああああ
 ひあああああああああああああああああああ
 多あああああああああああああああああああ
 花あああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああ
 ううああああああああああああああああああ
 さあああああああああああああああああああ
 さあああああああああああああああああああ
 えあああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああ
 べーあああああああああああああああああああ

と其実とこみあれはいつるもよもわ末のこゆりや
あつちも後成の祈りま和音大聖文珠の所習
よりあつちるやとそそ 祈代よりこのうごち人先
連のんとしてさ業としてさよあつちほよあり
うこれやちるとちてを鍛錬もかしてやとていと
えられんたなうはこれの人か海をせんた述と戸
聖賢は初に道実難曲難退河時成なることふも金
言なりとて 悉回受注よひつれりされと又難
即難なるとのことぬぬれ二向るの荒廢こそよ
あつち右人の初は奇なりむとのことさよあつちよ
くよむとのことさしてさまさればよとていつる
ぶりたさよすなれととささと 志實の功つりり
えりつとてさよなすともゆりんとは是しはれと
初学より退居せん人のあませんうごちなる
とて 又藝者よ二のやうあり先歌とていつる

のむ初まよよまらうらむかすともたぢふ社
の藝者かかりやとさなる人ー大方のともてはあ
とていつとてさよもつとあつちとて人よりかちあ
あつちとんさくんの藝者も又一つとてさよとて
いふあつちとてさよ初学はよとていつる
奇乃藝者初は志ざり一有あつちとていつる人
よとてさよとてさよとてさよとてさよとてさよと
つらぬ初学は志ざり一とてさよとてさよとてさよと
くかより初学よりいつるさよとてさよとてさよと
か末も少あつちあつちとてさよとてさよとてさよと
あつちとて早下せとてさよとてさよとてさよとて
いひつとて人の批判とてさよとてさよとてさよと
あつちとて人丸赤人も初学は志ざり一とてさよと
あつちとて早下してはせられぬとてさよとて
たし條と家初は志ざり私の初学は志ざり一とてさよ

和書字のり

くくた人のと一抄抄共の略記し
 和書の字と云ふはけりハ洒落なるとして成た
 とらうとい濟書古家の書と云ふもとくくくくくく
 字の物候といひいけりこれハ井爐抄又平中納言
 惟輔云云因支院後 嘉吉 文正 日隆 傳は流たとううい
 るといづれ乃たもとううわうとていとも辨るる
 かなと云ふ陰月のもく和書のもく又九條殿下
 兼実云の傳は文字乃字ハ洒落なれども又ヤ
 ハさハもあらん一和書乃字と云ふさハびとあ
 りや一とと作れりつとくわい流た地しとてハ
 和書と藝者せんともわく是流たなうとてハあは
 たりといふハ千代集序子作ひたとうあささ
 むうく小目申乃つとてあとのたともあひさるの
 目乃流のあつとこのりともくもあつた
 らのり流らあつと文字の内といふとて

あつとととのりなうせていひつゝぬるなうい
 又和書を刻抄秘書系入る本流之鎌倉志大
 流りれつと一傳の中又やあつと乃たハをく求り
 ひろくするなうとていふといふ言を流たは
 又乃流乃たとて流たはとて大和流
 ありとて和書物なけりといひとていふ
 文と求りひろく詩賦の言とていふとて
 の女自中流の言とていふとて流たは
 流たれとていふとていふとていふ
 とのりなうとていふとていふとていふ
 是流たはとていふとていふとていふ
 是流たはとていふとていふとていふ
 和書と流たはとていふとていふとていふ
 とていふとていふとていふとていふ
 うとていふとていふとていふとていふ

あはるもてト何まもせよぬて冷やさるもあては
ぶーらつ乃のまごさ海のらるへーとて以て
りーとすもあてトあつさ海もたさじうさ
てよひうさとささ人なごあらんたてさ有
つらどおどなるささうさ細く産とささうさ
のたふも優徳難の賦義とてたるとや又西行の
花今采まてあ乃を陵夷せり以淡かきせり程の
去なれとも女産さかうとて一の雅とせりは字と
助亦一とてささいさ

和歌の詞の事

一詠弄大極後表詞以而可用

和不可用三代集定之所用
新古今古今同可用之

とと和弄の詞はつてささいさあつらとかなれらう
つらさ細とつてつてささいささくさかなれぬ
和とあつてささいさささいさささささささ
とさささあつてささいさささささささささ

定表にの及よ詞以而可用と云下乃わかよ詞不可出
三代集定之所用新古今古今同可用之と云これ
よハ作ささあつてささいささささささささ
よ可用詞は古今集後撰集拾遺集之三代集之詞
と可用新よ新古今集とも云し三代集比のあ人
のあつてささいさささささささささささ
古今定家や南代の集しされは南代の集さるも左
人の知なつて可用と云ふは知つてささの知は方
無量として三代集のあ中もれ用てその客なささ
おれとつてとも定家たのやうさささ定のささハ
作ささあつてささいささささささささささ
今初学の人弄と海とんとささ志あられいひつて
ささ知とささいささいさ人あつてささ人のささあ
よも又ハ二句もささいさささささささささ
ささあつてささいささささささささささ

後十三 くらぐの山の中へ

大和の山に 大和の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

○秋

いおの山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

山崎の山に 山崎の山に

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

舟の松乃をまうりぬ

松井で五

舟ハ字世のおうりやち

後アで五

舟と秋ハかき物と

後アで五

つゝぬらぬらむぞあはる

松井二

舟の松もむらさくら

後ハで五

舟の松もむらさくら

右ア三

舟と秋ハかき物と

右ア三

つゝぬらぬらむぞあはる

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

舟の松乃をまうりぬ

松井で五

舟ハ字世のおうりやち

後アで五

舟と秋ハかき物と

後アで五

つゝぬらぬらむぞあはる

松井二

舟の松もむらさくら

後ハで五

舟の松もむらさくら

右ア三

舟と秋ハかき物と

右ア三

つゝぬらぬらむぞあはる

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

松井五

舟と秋ハかき物と

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井二

舟の松乃をまうりぬ

後アで五

舟ハ字世のおうりやち

松井で五

舟と秋ハかき物と

後アで五

つゝぬらぬらむぞあはる

松井二

舟の松もむらさくら

右ア三

舟の松もむらさくら

松井三

舟と秋ハかき物と

松井五

つゝぬらぬらむぞあはる

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

舟の松乃をまうりぬ

松井で五

舟ハ字世のおうりやち

後アで五

舟と秋ハかき物と

松井二

つゝぬらぬらむぞあはる

松井五

舟の松もむらさくら

右ア三

舟の松もむらさくら

松井三

舟と秋ハかき物と

松井五

つゝぬらぬらむぞあはる

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

松井三

舟の吹く世秋の山を吟

松井二

舟の松乃をまうりぬ

後ア三

舟ハ字世のおうりやち

松井で五

舟と秋ハかき物と

後ア三

つゝぬらぬらむぞあはる

松井二

舟の松もむらさくら

右ア三

舟の松もむらさくら

松井三

舟と秋ハかき物と

松井五

つゝぬらぬらむぞあはる

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

舟の松乃をまうりぬ

松井で五

舟ハ字世のおうりやち

後アで五

舟と秋ハかき物と

松井二

つゝぬらぬらむぞあはる

松井五

舟の松もむらさくら

右ア三

舟の松もむらさくら

松井三

舟と秋ハかき物と

松井五

つゝぬらぬらむぞあはる

後ア三

舟の吹く世秋の山を吟

松井三

舟と交を詠しつらん

右牛で五

舟の吹く世秋の山を吟

後アで五

古フニヤ

さくらさのれうんき

松七三

このもうのもは降り

松七三

あかくさの候千ち

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松七三

松

